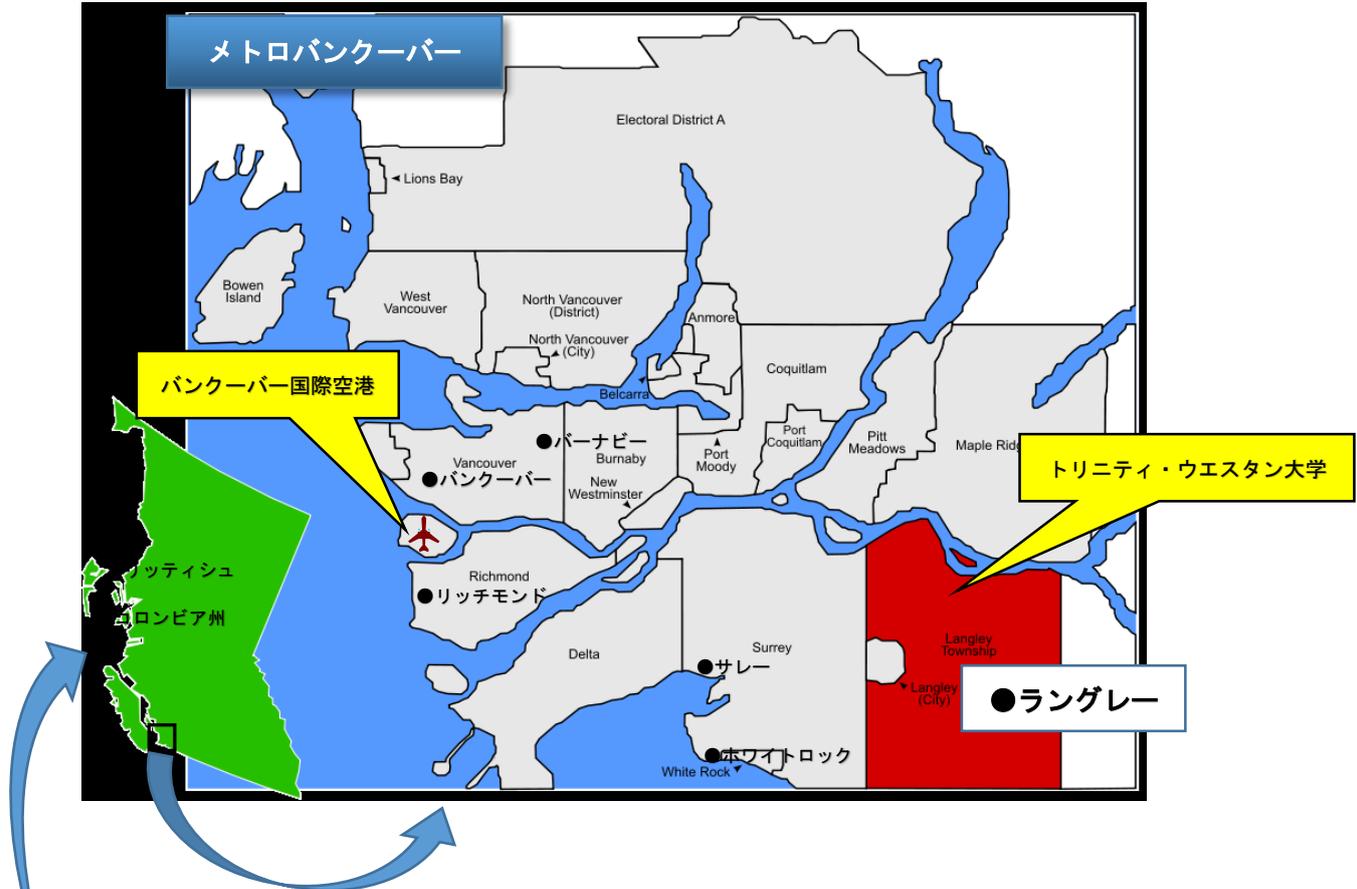


平成 29 年度 南幌町中学生国際留学プログラム事業 報告書



**International Study Abroad Program Report
Aug.6-Aug.19, 2017 BC,CANADA**

地図



Contents

International Study Abroad
Program in CANADA 2017

地 図

海外留学行程表 1

ホストファミリー 2

研修生徒報告

青 柳 剛 3

松 島 壯二郎 5

渡 邊 寛 大 7

相 原 芙 香 9

大 津 菜々保 11

桂 和 花 13

坂 本 真 理 15

中 村 望々夏 17

野 呂 夏 希 19

本 間 詩 望 21

引率者レポート

元 木 真 美 23

Photo Gallery 25



南幌町では、外国での語学研修やホームステイ体験を通じて、「子どもたちに国際感覚を身に付けてもらおう」と平成 26 年度から『中学生国際留学プログラム事業』がスタートし本年度が 4 回目となりました。

本年度派遣されたのは、南幌中学校・札幌日本大学中学校の男子生徒 3 名と女子生徒 7 名の 10 名。出発までに 5 回の事前研修の中で、ホームステイの心得や英語レッスンを受け、初めての海外研修に備えてきました。

カナダ短期留学は、8 月 6 日から 8 月 19 日の 14 日間の日程で、バンクーバー地域のラングレーにおいて、現地のトリニティ・ウエスタン大学での語学研修や、ホームステイによる生活体験、地元の幼稚園児との交流など様々な体験をしました。

本書は、平成 29 年度のカナダ・バンクーバー地域における派遣生徒たちの短期留学について報告します。

海外留学行程表

日次・月日	地 名	現地時間	交通機関	スケジュール
1日目 8月6日(日)	南幌町ぼろろ 南幌町ぼろろ発 新千歳空港発 羽田空港発	14:30 14:50 17:30 21:50	バス ANA74便 ANA116便	出発式 出発式終了後・南幌町から新千歳空港へ 国内線にて羽田空港へ 出国審査・羽田空港からバンクーバー空港へ
	バンクーバー空港着 バンクーバー空港発 ラングレー	14:55 16:00 17:00	専用車 ホスト送迎	【日付変更線通過】 入国審査 ホームステイ地域のラングレーへ トリニティ・ウエスタン大学(TWU)到着、ホストファミリーと対面→ホストファミリー宅へ
2日目 8月7日(月)	ラングレー		ホスト送迎	トリニティ・ウエスタン大学にて ESLI プログラムの英語レッスンとキャンパスツアー
3日目 8月8日(火)	ラングレー		ホスト送迎 スクールバス	英語レッスン フォートラングレー見学
4日目 8月9日(水)	ラングレー		ホスト送迎	英語レッスン コーディネーターとクッキー作り・ゲーム
5日目 8月10日(木)	ラングレー ホワイトロック		ホスト送迎 スクールバス	英語レッスン ホワイトロック見学
6日目 8月11日(金)	ラングレー		ホスト送迎 スクールバス	チャイルドケアセンター(保育園)への訪問 スーパーマーケットでショッピング 英語レッスン
7日目 8月12日(土)	ラングレー			ホストファミリーと過ごす休日
8日目 8月13日(日)	ラングレー			ホストファミリーと過ごす休日
9日目 8月14日(月)	ラングレー バンクーバー		ホスト送迎 スクールバス	終日、バンクーバー市内見学
10日目 8月15日(火)	ラングレー		ホスト送迎 スクールバス	英語レッスン ブルーベリーファームでブルーベリー狩り体験
11日目 8月16日(水)	ラングレー バーナビー		ホスト送迎 専用車	英語レッスン メトロタウンへショッピング研修
12日目 8月17日(木)	ラングレー		ホスト送迎	英語レッスン Farewell Party=サヨナラパーティー 修了証書授与
13日目 8月18日(金)	ラングレー リッチモンド バンクーバー空港発	16:20	専用車 ANA115便	ホストファミリーとお別れ スティーブストン見学後、バンクーバー空港へ バンクーバー空港から羽田空港へ
14日目 8月19日(土)	羽田空港着 羽田空港発 新千歳空港着 南幌町ぼろろ	18:30 20:25 22:15 23:50	ANA79便 バス	【日付変更線通過】 入国審査 国内線にて新千歳空港へ 新千歳空港到着後添乗員とお別れ、南幌町へ解散

ホストファミリー

滞在者	ホストファミリー			
	Father	Mother	Children / age	Pets
青 柳 剛	PARAISO Eduardo	PARAISO Michelle	NATHAN (Son) /11 ALEX (Daughter) /7 ELLA (Daughter) /2	
松 島 壯二郎	MOSER Robert	MOSER Maria	ALISTER (Son) /23	2dogs 1cat
渡 邊 寛 大		REIS Aurora		
相 原 芙 香	LUNDGREN Matthew Weston	LUNDGREN Rebecca	CHARITY (Daughter) /11 ISAIAH (Son) /7 SADIE (Daughter) /5 ABRAHAM (Son) /3	
大 津 菜々保	MIRANDA Jomell	ALMARIO Sally	JOHN MANUEL (Son) /7 JULIAN (Son) /3	
桂 和 花	SANTOSO Hendri	BIRAWA Annita	EMILY (Daughter) /13 SAMANTHA (Daughter) /3	
坂 本 真 理	QU Tony	XUE Hong	WEIKE (Son) /23 EMILY (Daughter) /14	
中 村 望々夏	GUNAWAN Budi	DEVINA Florence	JEVON (Son) /9 CLAIRINE (Daughter) /4	
野 呂 夏 希	TABADERO Fernando	TABADERO Myrna	JAMIELEE (Daughter) /18 CLAIRE (Daughter) /18	1dog
本 間 詩 望	MANGAT Ramanbir	MANGAT Gulshan	DEEPISHWAR (Son) /18 GURKIRAT (Son) /15	1dog





私は今回のカナダ留学でカナダでの授業、生活、環境の中で多くのことを学びました。

私はカナダへ向かう前からワクワクした気持ちと共に不安の気持ちがありました。そして、約十時間ほど飛行機に乗り、カナダに着きました。空港から大学へ行き、ホストファミリーと対面しました。ホスト



ファミリーの家に着くと、他にもホームステイしている韓国人が二人いました。ホストファミリーはとても優しく、初日はたくさん話しかけられましたが耳が現地の英語に慣れていなくて返事をするだけで精一杯でした。

二日目は、学校で初めて授業を受けました。最初は先生が言ったこと

カナダ留学での経験と思い出

南幌中学校
3年B組 青柳 剛



を理解するのに時間がかかりましたが、みんなで協力して授業を進めることができました。午後は学校の建物や施設を案内してもらいました。家に帰って夕食を食べました。食事には困りませんでした。夜は九時ぐらいにならないと日が沈まなくて不思議な感じがしました。

三日目は、時差ぼけのせいで、すごく早く起きました。午前中の授業はほとんどの人が朝早く起きたらしく大変でした。午後からはフォートラングレーという場所に行きました。そこでは、カナダの歴史を



学びました。

四日目の午後は、お菓子作りをしました。お菓子作りは三つのグループに分かれ、三種類のお菓子を先生に教わりながら作りました。全てのお菓子が作り終わって、みんなで食べました。自分達で作ったお菓子はとても美味しかったです。たくさん作ったので、残った分はホストファミリーにプレゼントしました。

五日目は、ホワイトロックという白くて大きい岩がある海に行きました。海ではみんなで写真を撮ったり、海水をかけ合ったりして楽しい時間を過ごしました。海から出た後はアイスを食べたり、お土産を買ったりしました。





六日目は、朝から現地保育園を訪問しました。保育園では、折り紙で紙飛行機などを作って遊びました。その後に遊具で遊びました。保育園の子供達と別れるときは、子供達が寂しそうにしていたので、もっと遊びたくなりました。午後は学校で授業を受けました。

七日目と八日目は土曜日と日曜日だったので、家でホストブラザーと遊んだり、お土産を買いに行ったりしました。一週間過ぎたので英語もすっかり聞けるようになり、残りの日数を意識するようになりました。

九日目は、授業がなくて朝からバンクーバー市内見学に行きました。バンクーバーでは買い物 took a lot of time.



十日目と十一日目は、バンクーバーの色々なところを見学し終って、行きと同じバスに戻ったときにとっても驚くでき事がおこりました。バスが車上荒らしされ、私がバスに置いていたリュックが盗難されてしまいました。その日だけはリュックにパスポートが入っていたので、ショックでも落ち込みました。

十日目は、みんなと違うスケジュールになりました。まず、大学の先生の車で日本領事館のあるバンクーバーまで送っていただきました。それから、添乗員の伊藤さんと一緒に日本領事館でパスポートのかわりになるものを発行してもらったため申請をしました。パスポートの

かわりになるものを発行してもらうまで時間がかかるので、カナダでも人気な高い吊り橋に行つて、すごく楽しい思い出になりました。日本領事館で申請したものをもらいに行つたら発行されていて、みんなと一緒に日本に帰国できることになったので安心しました。

十一日目は、午後にメトロタウンという場所でショッピングでした。

十二日目は、さよならパーティーがある日で、授業が終わってすぐに準備を開始しました。みんなの特技や習字でホストファミリーの名前を漢字で書いたり、クイズをしたり、リコーダーや歌を歌ったりして、ホストファミリーに感謝の気持ちを伝えることができました。その日の夜は、「まだカナダにいたい」という思いがあったのでなかなか寝れなかつたです。

最終日は、朝に最後の朝ごはんを食べて学校へと向かいました。学校へ向かう車の中でホストマザーと日本のことについてたくさん話しました。二週間、英語ばかり聞いた

り話していたら、自然に聞いたり話したり出来る事ができるのを実感しました。大学の先生と別れて、飛行機の中で二週間の色々なことを振り返ると、二週間はとても早いと思えました。

私はこの二週間で色々な経験ができました。このように貴重な経験をさせていただいた町長をはじめ、教育委員会や留学に関わった皆さんの方々に感謝しています。このような素晴らしい留学を後輩達に伝えていきたいです。





私は、カナダでたくさんの方の壁に当たりつつ色々なことを学びました。私が、まず驚いたのは、食のことです。初日、ホストファミリーがハンバーガーを食べに連れて行ってくれました。ハンバーガーがとても大きく、ポテトもかなりの量でした。結局残してしまい、食のことが少し不安でした。ですが、食には何も困りませんでした。



朝は、ほぼ毎日シリアルを食べていました。勝手に食べて良いと言われたので一人で食べていました。昼のランチも初日はリングゴが丸ごと入っていてお腹がきつかったので、バナナに変えてもらいました。嫌なもの嫌だと言うと次の日からは無くなるので、初日からコミュニケーションがとれるとあとあと楽です。

カナダで成長できたこと

南幌中学校
3年B組 松島 壯二郎



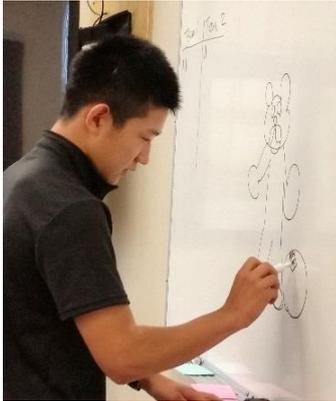
ホームステイ先では、できるだけリビングにいるように心がけていました。一緒にテレビを見たりして知っている曲が流れたらこの曲知っている等と話かけました。最初の三日間くらいは英語が聞き取れず、部屋にいたいと思いましたが部屋にこもっていてもすることがありませんでした。自分が話す時、ホストファミリーも聞こうとしてくれるので、自分の考えとかをどんどん言うようにしていました。そのうち言えるようになりました。学校では、午前中に英語レッスンがあり、午後からはアクティビティでした。授業はオールイングリッシュでした。英語とふれ合う時間が長くなり、聞き取りの能力が上がったような気がします。先生もたまにおもしろいことを言って雰囲気



ませてくれました。昼休みには、フリスビーをしたりドッジボールなどをして体を動かしました。午後のアクティビティは時間が経つのがものすごく早いです。お土産を買ったりするのももちろん楽しいですが、カナダと日本の違いを見つけるのも楽しいです。例えば信号機です。歩行者用の信号機に驚きました。私が一番思い出に残っているのは、バンクーバー観光の日でした。その日は一日中アクティビティ



した。午前中フライオーバーバーカナダというものや、ガスタウンへ行きました。何日か前に出川哲朗が番組の収録で訪れたということに興味しました。一番びっくりしたのは、オリンピックの聖火台へ行くまでの道のりでした。警察やマスコミがいて、立入禁止のテープが貼られていました。帰ってニュースをチェックすると、映画デッドプール口の撮影で死亡事故が起きていたそうです。午後はスタンレーパークで昼食をとり、ロブソンストリートへ行きました。あまり興味のあるものが無かったので、歩いてガスタウンへ行きました。エチさんに途中まで案内してもらい、買い物をして帰りは自分たちだけで戻りました。道に迷うことなく無事に戻ってくることが



できました。

帰りのバスに乗った時、日本とカナダの一番の違いに気づきました。それは、カバンが盗まれていたので。私を含めた三人が盗まれていました。最初みんなはパニックでした。しかし、エチさんのプロの対応やアクティビティリーダーのミック達素早い対応で少し安心することができました。思いもしなかった突然の出来事に驚きしかありませんでした。これが外国なんだと思いました。

家に帰ってホストファミリーに伝えると、通学用の少し小さめのカバンをくれました。ホストファミリーはとても優しくかったです。その日

の夕食は、私の気持ちを少しでも楽にさせてくれようとしたのか、笑いを生み出してくれました。それ以来、私はずっとカバンを持ち歩くようにしていました。

ホストファミリーと過ごした休日もとても楽しかったです。土曜日にはホストマザーと二人で夏のスキー場へ行ってからバンクーバーへ行きました。人が多くてビックリしました。そこではお寿司を食べました。初めに味噌汁が出てきました。味はほとんど変わらなかったのですが、具に豆腐が入っていませんでした。中でも酢の物は、もはや酢の物ではありませんでした。ほぼデザートのように甘くてまずかったです。ここで、カナダ生活唯一のお米を食べました。

家に帰ってきて三十分位したら、二十三歳の兄ちゃんとその友達とナイトマーケットへ行きました。友達は少し日本語がしゃべれる人で、たまに英語で話しながら、日本語でも話していました。帰るとき、その人に出会えて良かったと言われと

てもうれしかったです。世界はとても広いと感じました。

日曜日はホストファミリーとハイキングへ行きました。川の上の石を渡ったりしてとても楽しかったです。足が濡れました。

二週間は本当にあつという間でした。最初の三日間は本当に大変でした。ですが、その中でも積極的にコミュニケーションをとることで、英語力が向上しました。この年で、本当に貴重な体験をすることができたと思っています。この体験を無駄にしないように、これからも勉強を頑張りたいと思います。





カナダでの生活や、TWU大学での語学研修は想像していたよりも大変で疲労が多いものでした。ですが、それを上回る、楽しさや日本では絶対に味わうことのできない非日常の刺激強さがあります。その楽しさや刺激強さの前では二週間という時間は、あっという間に過ぎてしまいました。

ですが、全てが楽しいわけではありませぬ。最初の三日間は英語を聴きとることができない、十六時間の時差で寝ることができないなど困ったことがあります。一つ目は耳が慣れていない為ホストマザーや学校の先生とのコミュニケーションができないので、喋りたくても喋ることができない、話

カナダでの二週間

南幌中学校

3年A組 渡邊 寛大



しかけてもらっても返答ができず困惑されてしまったりという点が辛いです。学校のリスニングCDの様に、キレイで聴きとり易い英語を全員が喋ってくれるわけでもありません。カナダは移民が集まってできた国なので、中国なまりの英語など聴きとらなければなりません。そうしたことも含め、とても重要な経験でした。

二つ目の時差で寝れない時は授業中に眠たくなってしまったりと大変でした。こうなってしまう原因は、日本時間を気にしすぎたからだだと思います。日本とLINEでのコミュニケーションをとるため、つい日本時間を気にして、自分の中の時間の感覚がバラバラになってしまうのだと思います。これからも

しカナダに行く後輩がいるなら、これは注意してほしいです。他にもカナダは日本と比べて日が落ちるのがとても遅いです。どのくらい遅いかというと、夜の八時半くらいに日がやっと落ちて、九時に暗くなるほどです。これも寝れなくなる原因だと思っています。

当然、日本と十六時間も時差がある遠い地なのだから、文化や食生活の違いによる驚きもありました。先ほど述べた、「移民が多い為様々な人種がいる」「夜九時くらいまで明るい」などもその一部です。その中でも僕が一番驚いたのは、街の外観です。僕がホームステイしていたサ





レーの街は住宅街で静かでした。建っている家はすべて日本のものより大きく、まさに小さい頃テレビで見た海外ドラマに出てきそうなものばかりで、初日にこの住宅街に来たとき、「ああ、本当に外国に来たんだ、俺。」と実感しました。それ程僕の中でこの住宅街は印象に残っているのです。

TWU大学での英語レッスン、アクティビティは先ほど述べたとおり、どれも楽しいものでした。英語レッスンは、やはり本場の英語ということもあり、聴こうと意識していくうちに自分のリスニング能力も上がっていったと思います。そして聴きとれて、先生やホストマザーと

会話が続いた時はとても嬉しかったです。

僕は最初、耳が慣れていなくて自分に対して質問を聴きとれず、相手に対して嫌な思いをさせてしまうことが多かったので本当にうれしかったです。他にも、午後からのアクティビティでは、現地の幼稚園に行き、おり紙のおり方を教えて一緒に遊んだりカナダの自然や野生動物について外を散歩しながら学んだり、フォートラングレーという北海道と言う開拓の村の様な場所に行き、カナダは昔、ビーバーの皮を使ったシルクハットで栄えたということを知りました。

この他にも色々な場所に行き、色々な物を見て、色々な体験をしました。これは全て、普通に夏休みを過ごしていたら絶対にわからなかったし、できなかったことなのだと、少し時間を置いて色々なことを整理すると、わかったことです。自分がどれだけ非日常の世界にいて、不思議で特別な体験をして、たくさん知識を得たかということが再確



認できたと思います。

そうした様々なできごとを整理した後だとやはり自分のことを二週間の間、良くしてくれたホストマザーの REIS Aurora (レイス オーロラ)さんに感謝してもしきれません。カナダにいた二週間の中で週末の二日間だけ学校に行かず、ホストマザーと過ごす時間がありました。その時でも自分がしたいと言ったことをさせてくれたり、僕が退屈しないように、教会や図書館に連れて行ってくれ、本当に嬉しかったです。そして、僕が一



番感謝していることがあります。それは食事です。毎日、朝、昼、夜と食事を提供してくださる中で、今日僕が何を食べたいか、自分が作る食事は僕の口に合っているか、などとても気遣ってくれました。本当に僕は幸せな体験をしたんだなあとつくづく思います。

そして最後に、こうした機会を作っていたいただいた南幌町教育委員会のみなさん、ありがとうございました。これからもこの体験を生かして世界に視野を向けていきたいです。



カナダへ行って

南幌中学校
3年B組 相原 美香



私は今回の中学生国際留学プログラム事業でも良い経験をすることが出来ました。

千歳空港に着いた後すぐに羽田空港へ行き、そこでは皆と夜ごはんを食べました。女子はうどん、男子はラーメンを食べていました。そして9時間のフライト後バンクーバー空港に着きました。飛行機内では

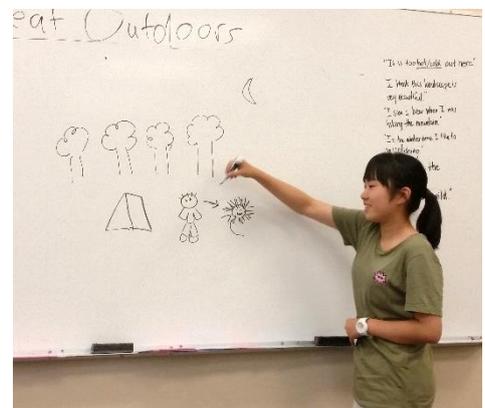
とても緊張していたせいであまり眠れませんでした。

着くとすぐに入国審査があり少し緊張していましたが自分があった人はたまたま全部日本語で話してくれたので難なく終えられました。

その後大学へ行き、それぞれのホストファミリーに引き取られ皆と

私のホストファミリーは七人家族でそれに韓国から十歳と十一歳の女の子が私より一週間早く来ていました。すぐに「何て呼べばいいの？」と聞かれ自己紹介を終えた後一緒に外で遊ぶと誘われ初日でしたが少しは仲良くなれた気がしました。

一番最初にでた夜ごはんはタイ



私が特に楽しかったのは二つのチームに分かれて新聞の中の写真から夏っぽい写真をさがし、どちらのチームが多くホワイトボードに貼れるかというゲームです。

午後からのアクティビティはフットラングレーやバンクーバー、メトロタウン、ホワイトロック、ブルーベリーファームなどたくさん場所に行きました。中でも私が楽

別れました。私はホストファミリーと長女が迎えに来てくれていたので、急に早口で質問され全然理解出来なく家に着くまでの約三十分間はあまり会話をすることが出来ませんでした。家の中はとてにぎやかでした。

米でした。日本の米と違ってあまり美味しくはなかったです。

平日は逆の日も何回かありましたが、だいたいは午前中が大学で英語レッスン、午後からはアクティビティでした。午前中の英語レッスンはヘイデイという先生が担当してくれました。やっている内容はそんなに難しくないので、説明が全部英語だったので最初は何を言っているのかわからないことが多々あり、理解するのに時間がかかりました。ですが徐々に耳が慣れてきて聞き取れるようになりました。ゲームともまじっているのでもとても楽しかったです。



しかなかったと思つた所はホワイトロックとバンクーバーです。ホワイトロックでは最初にカナダとアメリカの国境へ行きました。一応国境線を越えましたが、アメリカにいたるといふ実感が全然わきませんでした。その後ホワイトロックに行つて最初は全員石に登つてから海に入りました。海藻の中からすごく大きいカニを見つけた時はとてもびびくりしました。

がかかつてきたりなどリアリテイがあつてとても楽しかったです。それからバンクーバー観光をしました。都会なので高層ビルがたくさんあつて気分が上がりました。とても安いお土産屋さんがあつたのでそこで一個二ドルのキーホルダーを友達用に買つたり、メープルシロップを買つたりカナダメンバーでおそろいのTシャツを買つたりしました。

自由行動の時は女子全員で行動しました。日本にあるファッションブランドに一時以上いきました。結局、チョコレートしか買いませんでしたが店内はともかく、品数が多くて見るだけでも楽しめました。その後時間がなかつたので急いでスターバックスに行きました。メニューがよくわからなかつたので「チョコレート」と言う通じて自分の好みだったので良かったです。土日はホストファミリーと過ごしました。土曜日は両親の友達の家に行つてバーベキューをしました。留学している日本人の高校生が一



人いて心強かったです。日曜日は海に行きました。子供達と砂で遊んだり海に入つたり良い思い出になりました。

カナダへ行つて日本と違うなど思つたことを二つ紹介します。一つ目は食事です。朝はほぼシリアル、昼はジャムがはさまつたサンドウィッチとお菓子、夜は日によつて違いますがパンやスパゲッティ、主食がない日ももちろんあります。だいたいは美味しいですが、たまに口に合わない日もあります。その時はちゃんと本当のことを言うことが大事だと思います。二つ目は宗教です。それぞれのホ

ームステイ先にもありますが私の行つた家はキリスト教だったのでご飯を食べる前に「アーメン」と言います。土曜日はバーベキューの前に教会へ行つて歌を歌つたり話を聞いたりしました。最後に私は今回の留学でとても良い思い出が出来ました。慣れない英語での二週間は長いようでありながら貴重な経験させていただき本当に感謝しています。ありがとうございました。





カナダでの二週間

南幌中学校

3年A組 大津 菜々保



で少しお腹が空いたときなどに食べていました。

初日は疲れているから早く寝ようと思つていましたが、時差ぼけであまり寝ることができず次の日もとても眠かったです。

大学での授業はハイデイに教わりました。最初は話すのが速くてほとんど聞きとれませんでした。半分を過ぎたところあたりから言っている意味が少しずつ理解できるようになりました。

そして、授業が終わると、毎日アクティビティリーダーのミックと色々な場所に行きました。ミックが紹介してくれたアイスクリームの店はとてもおいしかったです。家に帰ると毎日スナックをすすめられました。その後一時間もしないで夕食というのが多かったので断っていました。

私のホームステイ先は毎日ホストファミリーがご飯を作っていました。味つけは日本とあまり変わらず、お米もあつたのでフードシックスになることはありませんでした。食事



中やリビングで休んでいるときはなどは家族がタガログ語で話している、皆が大笑いしているときは私だけ意味が全く分からず寂しかったです。

私の部屋はホストブラザーの部屋だったのでジョンマニエルとジュリアンはホストマザーの目を盗んでよく来ていました。写真で私の家を見せたり、地球儀で日本の場所を教えたりとても楽しかったです。食後に公園に行くこともありました。私はずっと鬼ごっここの鬼にされました。

金曜日は次の日のパーティの食材を買いにスーパーとコストコに

私の二週間のカナダ短期留学は、驚きと楽しさに満ちたものになりました。私はカナダへ行く前、全く実感が湧かずやろうと思っていた英語の勉強も結局やりませんでした。

一日目はカナダに到着して大学へ向かい、そこでホストファミリーと会いました。私のホストファミリーはホストファミリーのジョーメル、ホストマザーのサリー、ホストブラ

ザーで七歳のジョンマニエルと三歳のジュリアン、ホストマザーの妹夫婦のジュニアとマーク、おばあちゃんの計七人の大家族でした。洗濯は四日から五日に一度のペリスで洗濯機の乾燥が難しいという理由でホストマザーがやってくれました。

私は日本のおかしとみそ汁を持っていきました。みそ汁は朝ごはん、おかしは学校の休憩時間や、家



行きました。スーパーには、ごまやたまごボーロなど日本の商品がたくさん売っていて驚きました。コストコは日本とあまり変わりはありませんでしたが、売っているものが大きく、さらに外にはガソリンスタンドもありました。

土曜日の遅めの朝ごはんはパンケーキ屋さんで食べました。私は量の少ないキッズメニューにしましたがそれでも多くてやっと思いで食べ切りました。その後はリッチモンドにある大きなショッピングセンターに行きました。ホストマザ

ーの妹とおばあちゃんはそこで時計やブランド品を買っていました。買い物しておいでと言われたものの、私にはどれも高すぎて結局見るだけに終わりました。家に帰ると皆パーティーの準備をしていて私も春巻作りを手伝いました。

五時になるとだんだん人が増えてきて六時には家に入りきらないほどの人が来ました。

主役はフィリピンから来ているおばあちゃん、その日は誕生日だったそうです。九時頃から大音量のカラオケが始まり、パーティーは十一時まで続きました。私は東京・奈良・京都に行ったことがある女性と話したり、日本は良い国だよねとたくさん言われとても嬉しかったです。小さい子も来ていて紙ふうせんや吹きもどしで遊びました。

日曜日は午前中航空ショーを見に行きました。小さな飛行機から大きな飛行機までさまざまな種類のものが多数展示されていました。席についてカナダの国歌を聞き終えると、飛行機が飛び始めました。宙



返りをしたり、見物人の近くまで来たりしてすごかったです。飲み物や昼食は全て無料で食べほうだいでした。飛行機を見ながらの昼食はいつもと違って楽しかったです。

午後からはバンクバーに行きました。カナダは今年百五十周年でそれを記念するものががざられていました。フランスの大きな観光船がとまっていますか乗ってみたいと思います。次の日にバンクバーに行く予定があったので、下見ができてよかったです。

月曜日から帰る日までの四日間があつというまでした。さよならパーティーのスライドショーの写真はついこの前のことなのに、とてもなつかしく感じられました。今回の留学を通して私は英語の

発音や文化の違いなどたくさんことを学べたと思っています。そして、引っ込み思案の私がかこまで楽しむことができたのはえちさんのおかげです。えちさんはハプニングが起こったときもあわてず落ち着いて行動し、流暢な英語は私を安心させてくれました。最初の三日は長すぎると思っていた二週間も過ぎしてみるとあつというまでした。この貴重な経験を将来につなげていきたいと思っています。私は中学生国際留学プログラムに参加できて本当によかったです。この事業を支えてくれた方々には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。





私はこの中学生国際留学プログラム事業を通して、一生忘れられない貴重な二週間を過ごすことができました。カナダに行ったことで、英語力が身についただけでなく、文化に直接触れ、自分の視野が大きく広がりました。

カナダに着いて初めに思ったことは、北海道とカナダは似ているということです。学校に行く道のりはいつも田んぼが広がっていて、温度



カナダの思い出

南幌中学校

3年B組 桂 和花



もほぼ同じだったもので、快適に二週間を過ごすことができました。

私のホストファミリーは四大家族で、十三才の艾米リーと三才のサマンサという名前の姉妹がいます。初めて会った時、緊張している私に艾米リーがたくさん話しかけてくれて嬉しかったです。最初は上手く聞きとれなくてあいまいな返事しか返せませんでした。それがすごく悔しくて、何度も積極的に話しかけ

るうちに、同じK-POPが好きということが分かり、よくその話で盛り上がりました。

また、艾米リーがおすすめのアニメを紹介してくれ、毎晩二人で見っていました。他にも艾米リーの学校の話や、私の学校の話をして、カナダと日本の違いにお互い驚きました。

カナダは食べ物がおいしくないと言われていましたが、ホストファミリーは料理が趣味で、日本料理や中華料理などおいしい食べ物が食べられて幸せでした。

ホストファミリーとは、学校の往復一時間も毎日話していました。今日あったことや、日本のことなどたくさん聞いてくれたので、そこで英語力が身についたと思います。

サマンサは私にも懐いてくれ、小さい子が苦手な私でも仲良くなることができました。ホストファミリーはいつも私を気にかけてくれ、分からないことがあったら丁寧に教えてくれたので、快適に過ごすことができました。家でびっくりしたことは、カナダ人は朝にシャワーを浴びる

ことです。なので夜は誰も被らなかつたので良かったです。

ホストファミリーと過ごした中で一番の

思い出は、週末にショッピングに行ったことです。普段は行かないお店に行ったり、外国ならではの服を選んでいたり、外国ならではの新鮮でした。実際に色んな所に行くと、全ての物が大きいと感じました。道路だったり、スーパーだったり、洋服も全て日本とはサイズが違い、やっぱり外国なんだなど実感しました。

逆に、日本に対して気付いたことがあります。学校に行く途中外を見ていると、車の過数が日本のメーカーだったり、セブイレブンがあったり、車でJ-POPが流れたりして、改めて日本のすごさに気付きました。こうしてカナダにホーム





ステイしたことで、カナダの文化に触れるだけでなく、日本を見つめ直す良い機会になりました。

学校ではいつも午前中授業で午後からアクティビティでした。授業は全て英語なので、内容は簡単でしたが、聞きとることが難しかったです。理解したふりをしてそのまま進んでしまうと、自分のためにならないので、分からないことがあるときできるだけ質問するようにしました。

私達の先生であるヘイディーは分かりやすく説明してくれるので、授業を通して知っている単語がたくさん増えました。また英語を使ったゲームが楽しかったです。

午後のアクティビティはカナダの有名な場所に行ったりしました。特に印象に残っている所は、ホワイトロックとバンクーバーとツナ缶工場です。



ホワイトロックとはビーチの名前で、みんな海に入りました。私は大きい岩に登ると聞いていて長いズボンで来ていたせいで、海でみんなと一緒に深い所に行けなくて悲しかったです。ホワイトロックはアメリカとの国境に近いので、街並みがアメリカ風でした。普段食べないような大きいアイスをみんなで食べたりして楽しかったです。

バンクーバーは朝から出発し、フライオブカナダを体験したり自由にシヨッピングをしたりしました。フライオブカナダは、大きいスクリーンがあり、まるでカナダの空を飛んでいるような体験ができる乗り物です。本当に雨が降ってきたり、急降下したりして、USJのアトラクションに乗っているようでした。

午後の自由時間は服屋さんやスターバックスに行きました。これらのお店は北海道にもあるのですが、試着するときやレジなどで店員さんと話すときはとても緊張しました。バンクーバーはいくら治安が良くても、ホームレスが本当に多かったです。街の中心部から少し離れてひと気のない道を見ると、少し暗くて本当に怖かったです。

ツナ缶工場は最終日に行きました。工場見学の外国人の説明は、だいたい聞きとることができました。二週間の成果が出ていると思うと本当に嬉しかったです。そして、そこで食べたフィッシュアンドチップスの味がおいしくて忘れられません。

私はカナダに行つて、私の住んでいる世界は本当に小さいなと思いました。日本では普通だと思っていたことが、外国の普通ではなかったり、考え方が違ったりなど、カナダに行つて身を持って感じました。だから、もっと色々な世界を知り、固定概念に捉われないどこにでも対

応できる人間になりたいと思いました。そして、カナダで分からないことや伝わらないことへの悔しさをたくさん経験したので、もっと英語を勉強して成長してから、また外国に挑戦したいと思いました。また、このプログラムを通して、同級生との仲をもっと深めることができました。いつも面倒を見てくれた添乗員のえちさんにも感謝しています。

私はたくさんステキな思い出ができ、中学生国際留学プログラム事業に参加できて本当に良かったです。ありがとうございます。





私は今回の中学生国際留学プログラム事業に参加し、日本ではできないカナダならではのたくさん体験させていただきました。私は人生で初めての海外だったので、行く前は楽しみな不安が交ざり合ったような気持ちでした。そして色々な感情がある中、私はカナダへと出発しました。



長時間の飛行機は初めてでしたが、思ったよりも寝れたのでよかったです。カナダに到着した直後はまだ海外にいるという実感はありませんが、入国検査を終えてからは少しずつカナダに来たんだな、と実感がわいてきました。バンクーバー空港からはバスでラングレーにあるトリニティ・ウエ

カナダに行って

南幌中学校
3年A組 坂本 真理



スタン大学まで移動しました。移動中はほとんどの人が疲れて寝ていました。

大学に到着してからは先生からホストファミリーとの生活について説明してもらいました。その後、待ちに待ったホストファミリーとの対面でした。私のホストファミリーは中国系の方でした。最初からとても笑顔で私を迎えてくれました。そのおかげで少し緊張がほぐれてからすぐに夕食を食べ、その日は疲れていたの寝ました。

次の日から、大学が始まった英語レッスンはハイディー先生が教えてくれました。最初は、英語を上手に聞きとれず、先生の言っていることを理解するのが大変でした。しかし、毎日英語レッスンをしていると、どんどん耳が慣れていき、先生の発言を理解することができるようになりました。

お昼休みの時間はホストファミリーが作ってくれたランチを友達と一緒に食べました。私のホストマ



ザーは料理が上手だったので、いつも美味しかったです。

そして午後からはアクティビティで毎日カナダの色々な観光地に行きました。

私がアクティビティで行った観光地の中で一番楽しかったのは、ホワイトロックです。まず最初にカナダとアメリカの国境を見に行きました。国境のラインが微妙だったので、カナダにいるのかアメリカにいるのかときどきわからなくなりました。

その後ビーチへ移動し、まず始めにホワイトロックをのびりました。



想像していたより高くなかったの
でのぼりやすかったです。次にビー
チに入りました。ビーチの水はあま
り冷たくなかったのでよかったです
ですが、海藻が海の中にたくさんあ
って、歩きにくかったです。海の中
とても大きなカニを見つけたので
取り出したらみんなとても驚いて
いました。その後にアイスを食べま
した。値段は安いのに量がたくさん
あり、嬉しかったです。

他にもアクティビティでは、フォ
ートラングラーやメトロタウンな
どにショッピングをしに行きまし
た。初めてのところばかりだったの

でも楽しかったです。

私がカナダに行って驚いたこと
は、カナダには親切な人がたくさん
いて、色々私のことを気にかけてく
れたことです。特にホストファミリ
ーの皆さんは、私が悩んでいること
があつて質問をしたら、とてもわり
やすく丁寧に答えてくれました。

カナダに行って大変だな、と思っ
たことは、ホストファミリーと話し
ている時に知らない単語がでてき
たときです。しかし、私がもう一度
その単語について聞き返すと、丁寧
に説明してくれました。とても優し
かったです。

そして、私が今回の短期留学で一
番思い出に残っていることは、ホス
トファミリーと過ごした週末です。
土曜日はボートに乗りました。自分
の手でこぐボートではなく、エンジ
ンがついていて自動で動くような
ボートだったので、とても乗り心地
がよかったです。ボートに乗った後
はバーベキューをしました。とても
お肉が美味しかったです。

日曜日はハイキングに行きまし



た。私は人生で一度もハイキングを
したことがなかったので、最初はど
きどきしていました。その日は雨が
降っていたので岩がぬれていて登
りにくかったのですが、とても楽しか
ったです。山頂で食べたお昼ご飯も
美味しかったです。

私が今回の短期留学で学んだこ
とは、日本とカナダの文化の違いで
す。日本ではあたりまえのことでもカ
ナダでは通用しなかったりしまし
た。バンクーバー観光の時には車上
荒らしにあうというハプニングも
ありました。このように日本ではあ
まりみられないことも海外だとあ
りえるということも知りました。

しかし、日本よりもカナダの人の

方がとてもフレンドリーに接して
くれて話しやすいという良いこと
もたくさんありました。国は違えど
同じ人間同士わかち合えること
がとても多くて嬉しかったです。

今回の経験を通して、また他の
国に行って、日本との文化の違いを
たくさん学びたいなと思いました。
なぜなら他の国の文化を学ぶこと
によつて日本の良さがもつとでて
くると思つたからです。だからこれ
からも英語の勉強を今よりもつと
頑張つて世界にも通用する人にな
りたいと思いました。





私は今回、南幌町中学生国際留学プログラム事業に参加して様々なことを体験することができました。以前から英語や異文化に触れることに興味があり、三年前にこの事業が始まってから「自分もぜひこの機会に！」と三年間楽しみにしてきました。



出発前の三回のレッスンや説明会、オリエンテーションなどを通じて徐々に実感が湧きつつも楽しみになりました。出発日の午前中は、とてもドキドキしていて落ち着けずにいきました。けれども準備を終えてぼろろに向いみんなに会おうと、その緊張はどこかへ消えて行き仲間

大切な二週間

札幌日本大学中学校
3年B組 中村 望々夏



の良さを感じました。羽田空港で出国し、人生初の九時間の長時間フライトを経てバンクーバー空港に到着しました。空港へ迎えに来てくれた、アクティビティリーダーのオニカは、ジブリの「となりのトトロ」が好きでいつも私達を見付けるたびにトトロの歌を歌ってくれて私達をとて和ませてくれました。他のグループのアクティビティリーダーにもかかわらず仲良くなれて嬉しかったです。私のホストファミリーはホストマザー、ホストファザーと九歳の男の子と四歳の女の子の四大家族でした。四歳の女の子のクレリンとは毎日パズルをしたりレゴをしたり



おままごとをして遊びました。とても可愛い女の子で、もし私に妹がいたらこんな感じなのかなと思います。男の子のジェフオンが「公文」に通っていてとても驚きました。その他にも日本車のテレビCMやハローキティ、おりがみなど日本の物が沢山目に入りました。

毎日の夕食やランチはホストファミリーの出身国がインドネシアだったため、お米が沢山出てきました。ホストマザーが作ってくれる料理は、中華料理や、巻き寿司、インドネシア料理などでとても美味しかったです。もしかしたら、この食事がホームシックにならなかった





大きな理由かもしれません。
 休日は、野外で映画を見るイベントに連れて行ってもらいました。初めての体験でもとても新鮮でした。
 放課後は、クレリンとジェフオンとホストマザーと公園によく遊びに行きました。カナダは日が沈む時間が遅く、夜の九時まで子供達が公園で遊んでいることに驚きました。
 大学では、午前中ヘイディー先生の授業を受けて午後からはアクテイビティリーダーのミックとマイアに色々な所へ連れて行ってもらいました。中でもバンクーバー観光



が楽しかったです。
 バンクーバー観光では「フライオーバーカナダ」というカナダ上空を飛びとても綺麗な景色を4Dで体験できるアトラクションがとても印象に残っています。その他にもガスタウンでお土産を買ったり、スチームロックを見たりオリンピックの聖火台も見ることができました。
 バンクーバー観光では、思ってもいなかったアクシデントに遭遇しました。添乗員のエチさんが冷静に対応してくださり楽しく過ごすことができました。

カナダに滞在した二週間は、短いようで長く、長いようで短い二週間でした。ホストファミリーやアクテイビティリーダーの二人、先生が優しく接して下さったおかげで、一つ困ることがありませんでした。そして何よりも、久しぶりに行動を共にした私を三年前と変わらず心良く迎え入れてくれた九人の仲間感謝しています。

私は、カナダで沢山のことを学びました。カナダの人々の自然環境を守るための取り組みや姿勢、様々な国の出身の人々が、互いに尊重し合い、助け合いながら生きていくこと。そして、何よりも恥ずかしがらずに何事にも挑戦していくことを学びました。

私は、これからも積極的に英語に触れ、沢山勉強しグローバル化していく社会に対応できるように成りたいです。そうすることにより、人生の視野が広がり、色々な場面での選択肢が増えると思います。
 そして、将来は海外に住んで日本では体験できない日常生活を送ってみたい、色々な国の人たちと交流してみたいです。



国際留学プログラムの関係者の皆様、この度は貴重な体験をさせて頂き本当に、ありがとうございました。



に行きました。日本と違ってピンが五本、ボールには穴があいてなく日本ものより二まわりほど小さかったです。

水曜日はクレアが習っているチアリーディングの送り迎えについていきました。クレアが練習している間にホストマザーの欲しい靴選びと一緒にしていました。カナダのほとんどの店員さんは「How are you?」と聞いてくれます。これは日本ではないことだなと思いました。

木曜日はジェミリーと犬の散歩に行きました。その時にK-popの

のことについて話したりして気づけば一時間が経っていました。

そしてホストファミリーと過ごせる土曜日はグラウスマウンテンに連れて行ってくれました。そこではショーを見たりカナダ料理であるプーティンを食べたり展望台からバンクーバーを一望したりしました。まさに絶景でした。帰りにگرانビル・アイランドに連れて行ってくれました。そこは大きなビルが沢山立ち並んでいて迫力がありました。

日曜日はいとこの誕生会に参加しました。誕生会にはおよそ二十五人も集まっています。ご飯を食べ終わった後に公園に行きバスケットボールをしました。公園に行く途中でみんな他人の家のバスケットゴールにシュートをしていて驚きました。日本にはない大らかさを感じました。家に帰ってからはかくれんぼをしました。カナダのかくれんぼは日本と違って一人が隠れてそれをみんなで見つめます。見つけられたらその人と



じ場所に隠れていきます。さがしているところとどんだん人数も減っていくので焦ってきます。とてもハラハラドキドキするかくれんぼで楽しかったです。かくれんぼの説明も二回目で理解することができました。

このように、私のホストファミリーは、毎日たくさん経験をさせてくれて、多くの人と会わせてくれました。ホストシスターとは年が近かったため、日本の友達とするような普通の会話ができたことが私はとても嬉しく、英語を話すことがとても楽しくなりました。間違えてもいいからもっとたくさん話したいと思えるようになりました。ジェミリー

ーやクレアとはメールのやりとりをしたかったので、これからは文法などもしっかり勉強をして英語の力を身につけたいです。今回の経験を活かせるよう頑張ります。

最後に、夜遅くにお仕事から帰ってきて必ず私に話しかけてくれたホストファミリー、洗濯をしてくれたり美味しいご飯を毎日作ってくれてとても優しくあったホストマザー、夏休み中なのに毎朝待ち合わせ場所まで送ってくれたりたくさん話しかけてくれたおしゃやれで素敵なホストシスター達。本当にこの一家にホームステイすることができて幸せでした。そしてこの貴重な機会を与えて下さり、支えてくださった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。





私は今回、中学生国際留学プログラム事業に参加させていただき、カナダ留学という貴重な経験をすることができました。

二年生の後期までは留学プログラムに参加しようか迷っていましたが。海外に行ってみたくいけれど、ちゃんと生活していけるし、私の母が「海外留学なんてそうそうできない

し、こんなに親切に留学を支援してくれるところはめったにないんだから、行つてきなさい。」と背中を押され、カナダ留学に臨むことを決意しました。

南幌を離れるときも、羽田空港からバンクーバー空港に行くときもさほど緊張していませんでしたが、大学に着いてホストファミリーに

カナダ留学を終えて

南幌中学校
3年A組 本間 詩望



引きとられるとき、緊張と不安が一気に押し寄せてきました。頭の中は何を言おうか、何をすべきかでも混乱していましたが、なんとか迎えに来てくれていたホストマザーに挨拶することができました。

私のホストファミリーは父、母、息子二人の四人家族でしたが二人の息子さんはサマーキャンプに参加しており、帰ってくる日が私の帰国する日だったので、実際に一緒に過ごしたのは父と母の二人でした。父はラマンバ、母はガルシャンといつて、私は二人のことをラマンとガラと呼ばせていただきました。二人はインドの出身で、二人の英語はインドの訛りも入っており最初の内



は上手に聞きとれませんでした。何回も聞き直しても嫌な顔一つせず説明してくれました。

ガラはとても明るい人でよく私に話しかけてくれたり、彼女の勤めている幼稚園の中を見学させてくれたりと、色々親切にしてくれました。そのおかげで私もすぐに緊張が解けて、彼女を手伝ったり、頑張つて英語で話しかけてみたりしました。私は彼女に映画に連れて行ってもらい、海外で映画を見るといふ、貴重な体験ができました。勿論、すべて英語。



ラマンはスポーツマンで昔からバスケットボールやバドミントン、



アイスホッケーなど色々なスポーツをしてきたことを教えてくれ、私は元バドミントン部だったので週末と一緒にバドミントンをしました。とても楽しい週末を過ごすことができました。

翌日からの授業はなかなかハードなものでした。私達に勉強を教えてくれたのはヘイディーという若いにもうお孫さんがいる女性でした。大学の授業は基本、午前中は英語の授業、午後からはアクティビティでお菓子を作ったり、社会見学をしたりしました、私達にカナダの案内をしてくれたのはミックとマ

ヤという可愛い女性でした。二人とも私達にとっても親切にしてくれて、楽しい時間を過ごすことができました。普段聞くことのできないネイティブの言い回しや発音が聞くことができ、とても勉強になりました。

カナダでは日本と違うことがたくさんありました。一番驚いたのは日の長さです。カナダでは夜の九時くらいまで外が明るく、犬の散歩に行く時間も夜の八時から行くななど、日本ではあまり考えられないことがたくさんありました。

カナダに行って困ったこと、後悔したことは知っている英単語の量です。何か言いたい、話したいと思っても単語がわからなくて言えないことがたくさんありました。留学の準備で、幾つかは勉強したのですが、もう少し勉強しておけば良かったと今でも後悔しています。

お別れの日の朝にガラに「いつでもカナダに戻ってきてきて良い。私たちはいつでも受け入れるわ。」と言われて泣きそうになりました。今度、カナダに行く機会があれば、もっと



英語を勉強して行きたいと思いません。

今回のカナダ留学ではたくさん英語を学ぶことができました。英語は正しい文法を使わないといけないと思ってしまうのはいつまでも上達できないということに改めて学びました。これからはもっと積極的にALTであるデイビット先生と話して、もっと英語を上達させたいと思います。他には将来の仕事についても考えさせられました。私はまだ自分が何になりたいか、どんな職に就きたいか、わかり

ません。ですが、添乗員のえちさんの姿を見て、この仕事はどういった仕事かを知ることができ、自分にとってとても勉強になりました。そして何よりも勉強になったのはのりありがたみです。私は家族と、主に母と頻繁にケンカをするのですが、カナダに行くと、母の手料理や家族が、日が経つにつれ恋しくなりました。家に帰ってからは、少しでも親に感謝の気持ちを伝えようと思いました。

今回のカナダ留学は自分達の両親や南幌町の方々のお陰です。最後になりましたが、今回の国際留学プログラムに参加させていただき、本当にありがとうございました。





カナダ短期留学引率レポート

南幌中学校 教諭 元木 真美

今回教育委員会の方々のご厚意により、「中学生国際留学プログラム事業」の引率を任せていただきました。9時間のフライト、16時間の時差をうまくクリアできる心配でしたが、なんとか乗り切ることができました。

今回引率した私の使命は、

- ①ホストファミリー宅を訪問し生徒たちのことをお願いすること
- ②語学研修先のトリニティ・ウェスタン大学のESLIによる授業を確認すること
- ③生徒の様子を各家庭にお知らせすること
- ④今回の体験を生かし授業で生徒たちに還元することでした。

①ホストファミリー宅訪問について
バンクーバー国際空港に到着し生徒達が心配していた入国審査も無事通過するとトリニティ・ウェスタン大学の学生さんが迎えに来てくださっていました。

そこからバスで1時間程で大学に到着です。交通機関の接続がスムーズで予定よりも早い到着だったため、ホストファミリーの皆さんの姿はまだありませんでしたが、生徒達はいよいよ留学プログラムが始まると、眠気も吹き飛んだ表情で大学の先生のお話を聞いていました。いよいよホストファミリーの皆さんと対面。お互いに「やっと会えた」という感じで笑顔を交わしながらステイ先へ向かって行きました。今回はアジア系のホストファミリーの割合が多く、生徒達も他民族国家のカナダを肌で感じていました。このホストファミリーも留学生を受け入れることには慣れている様子で、食事から洗濯など、生徒達が困らないように些細なことまで気を遣ってくださいました。「ホスト

ファミリーが優しすぎて困ってしまう」ともらす生徒もいたほどです。



②ESLIによる授業の視察について
今回は教室の授業にはアシスタントの学生はおらず、ESLI専門のHindi（ハイジ）先生が一人で授業をし、校外でのアクティビティは学生アシスタントが手動で行う形で授業が組まれていました。最初は先生の話す英語が理解できなかったり、また理解していても反応（返事）ができなかったり、質問することもなかなかできませんでしたが、先生の巧みなアプローチで徐々に反応し始めました。初めて聞く単語についても辞書で調べたり、ハイジ先生



に聞いたりすることができるようになってきました。今回は自分の意見や説明を求められる場面があり、日本語ではわかっているけれども英語で表現することに苦労していたように思います。宿題もほぼ毎日出ていて、書いて表現することも求められました。

全員英検3級以上を取得しての参加ですが、海外で生活する際に必要な語彙は学校の授業をきちんと受けていればほぼ対応できますが、自分の意見を述べたり説明したりすると、語彙が不足していることは否めません。英検をはじめ今は様々な検定や試験、メディアがあ

ります。どんな形でもいいので、自分から積極的に学ぶ姿勢が重要になってくると感じました。

また、カナダは他民族国家です。様々な人がそれぞれ文化背景をもって英語を使っていることも生徒達は知りました。ステイ先にも他の国からの留学生がいる家庭もあり、英語以外の外国語も飛び交う環境にいた生徒もいます。

③家庭へのお知らせについて

例年同様に授業や様々な活動の様子はメールで各家庭に送信しました。大学構内や宿泊したホテルのFree Wi-Fiを利用して送ることができました。私の端末(iPhone)とWi-Fiの相性が悪く、接続がうまくいかない時間帯があったりで、映像が見られなかったご家庭もあつたかもしれません。ご迷惑をおかけしました。パンクーパー市内の飲食店ではFree Wi-Fiがあることが多く困ることはほとんどありませんでした。ステイ先でもそのお宅のWi-Fiを使わせてもらい、ご家庭と連

絡を取っている生徒もいました。

また、帰国後は「田」の添乗員さんが写真や文章で様子をこまめに伝えてくださり各家庭にお伝えすることができました。

④これからの教育実践について

カナダの入国審査では時間短縮を図るために、従来の窓口審査とタッチパネルによる申請システムが導入されています。事前にも電子渡航(eTA)の手続きがありました。

英語を「聞く・話す」能力も当然必要ですが、情報を「読み取る」能力、「説明する」能力を求められる場面がありました。知らない単語もスマートフォンや電子辞書で調べればわかることですが、知っていればよりスムーズに物事が進みます。文法を無視していいとはなりません、まずは生活に必要な語彙をどれだけ身につけるかが課題だと感じました。

また、授業の中でも自ら情報を発信するような場面設定(自己紹介・他己紹介・文化の説明・意見を述べ

る)を増やして語彙とともに表現のバリエーションを身につけさせるような授業づくりを目指したいと思います。

カナダから帰ってきた生徒達は以前よりも自信をもって英語の授業に臨んでいます。中学校での授業スタイルとトリニティ・ウエスタン大学での授業スタイルは異なりますが、英語を学ぶに当たっても様々なアプローチがあり、他の国でも積極的に英語を学んでいる同年代の人たちとふれ合うことができた今回のプログラムは、彼らを大きく成長させてくれました。自分たちの経験を後輩達にも伝え、外国語を学ぶ意義を広めていってくださることを思います。





8/6 出発式・出国前・カナダ到着



8/7 大学キャンパスツアー・語学クラス



8/8・9 フォーリング・ウィー・クッキー作り





8/10・11 ホクトロツク・チャイルド・クラブ



8/14 パンバー市内観光



8/15・16 グルーパー狩り・イトモ・リタセル



8/17 さよならパーティー



8/18 港町ライブ・スポットと別れ



8/19 帰国・南幌町へ



Thank you Canada

なんと!
なんぼろ
南幌町



平成 29 年 11 月発行
編集・発行 南幌町教育委員会 TEL 011-378-6620
〒069-0237 北海道空知郡南幌町栄町 3 丁目 3 番 1 号